



3月5日は二十四節気(にじゅうしせっき)でいうところの啓蟄でした。二十四節気は一年を15日ずつに分けてそれぞれ名前を付けています。中国から伝わった方式だとか。啓蟄は一年の3番目の節です。虫がごによごによ動き出し春が始まるのはうれしいことですが、高市政権あたりであればこれがごによごによしていることは歓迎できません。スパイ防止法案、改憲法案(9条に自衛隊明記というだけでなく、人権を削る内容)…“悲願”などと言っています。(ところで選挙前には減税も“悲願”だと言っていませんでしたか。こちらはやる気のない“悲願”)今や、ごによごによどころか、ぱあっと飛び立つ気満々に見えます。注視しつづけましょうね。

3月8日は国際女性デー。この日は女性の地位向上、女性差別の払拭を目指す国際的な連帯と統一行動の日です。数十年にわたる世界各国での女性労働者の権利運動を経て、1977年の国連総会にて「国際女性デー」を決議し、3月8日と定められました。

2010年に国連は「UNウィメン」を組織し、ひとつの国にひとつの国内委員会を作ることを認めました。2016年時点で西側諸国14カ国に国内委員会(民間団体)が設けられています。日本も含まれます。

今年は日本でも3/6は女性の休日マーチ、3/8日はウィミンズマーチ東京と、全国で様々な集会やパレード、スタンディングが行われました。けれども、日本ではまだまだ知られていませんね。この日のシンボルは早春に咲く黄色いミモザの花です。

少し前のブログの音楽記事です。のぞいていただけたらうれしいです！
[・女性の賛歌](#)
[・自由への途\(みち\)](#)
[・ネーネーズを聴いてくれ！](#)

3月の例会

スパイ防止法関連映像作品(DVDあります)

『レーン・宮沢事件 もうひとつの12月8日』

『シチズンフォー スノーデンの暴露』『スノーデン』

日時 3月23日(月) 13:30~16:00

場所 長池公園自然館 会議室 資料代 300円

わたしたちの疑問

今回のテーマ: 何をすると、スパイになる? 「スパイ防止法」

- ・少し前にスパイ容疑で逮捕された日本人がいましたね。今回の法案と何が違うのでしょうか。
- ・公務員に対しては既に似たような法律がありますね。対象者が国民全員になると言うことか。
- ・どのような体制で、どの組織が容疑を掛けるのか。警察、公安委員会、新たに作るという「情報局」?
- ・監視はどのような方法でおこなわれるのか。国民相互監視(=密告制度)が作られるのか。先ごろ、茨城県が外国人の非正規滞在を密告すると報奨金が支払われる制度を導入したとか(するとか)がありましたね。
- ・具体的にどのような行動がスパイ容疑になるのか。政府は普通に暮らしている国民には関係がないと言うでしょうけれど、「普通に」とは何か。
- ◆資料をお持ちいただける方はお願いいたします。
- ・一例で、写真撮影の場合、どのようなものが対象となるのか。うっかり写真も撮れない?!



4月の例会は4/25(土)を予定しています。土曜日にご都合の良い方はぜひ！
 ドキュメンタリー映画『[医の倫理と戦争](#)』を上映いたします。

堀之内駅前での宣伝

3/13(金) 10:00~11:00

署名よびかけ
大軍拡・戦争への道反対

戦争させない

八王子アクション

3/15(日) 14:00~

JR八王子駅北口

毎月19日議員会館前行動

3/19(木) 18:30~

衆議院第2議員会館前

新たな戦前にするな! スパイ防止法反対!

みんな、どんな料理を食べているんだろう?

今回はパレスチナの「ダッガ」dagga、このソース(タレ?)がないとパレスチナの夕食は始まらないのだとか。作り方と感想は <https://bessho9.info/wp/dagga/>を!

アラブ地域、東欧、中央アジア、アフリカ…わたしたちになじみの薄い料理



ちょっと、そのことば違い、どうなん?

政治家が使う慣用フレーズあれこれ
 わたしが気になったことばたち、今回は

「お答えを控えさせていただきます」
 あなたは答える立場にある。誰が「控えて」いいと言った!?



米国とイスラエルの両国が軍力によるイラン攻撃をおこなった。体制転換を企図したものだという。米国政府は最高指導者ハメネイ氏が死んだと伝えているが、死んだのではなく、正しくは「殺害した」である。殺害したのは誰か。革命が起きたわけでもあるまいし、どこの国であっても人を殺めるのは犯罪のはずだ。現在のイランの体制が良いとは思わないが、他国が武力という手段で政権を交代させることが正しいとは思えない。イランの体制変革はイランの人々の手によって実現されるべきものである。

今のイランの体制に苦しめられている人は数多い。それを救済するためだとしても、武力行使によって子どもを含む多数が死傷している。そもそも学校や病院、宗教施設に対する軍事攻撃は国際法違反だ。亡くなった子どもたちは「よりよい未来を築くための尊い犠牲になった」とでもうそがつもりだろうか。たとえ政権が倒れて抑圧体制がなくなったとしても、それよりも大きな憎悪が米国とイスラエルに向けられるだろう。抑圧体制とはいえ、親と子が共に生きることだけはできた。しかし空爆は親子を最も残酷な形で永遠に引き離すことになったのである。近い将来、尊い犠牲を掲げて新たなジハードを志す者も出てくるに違いない。民衆が自らの手で打ち立てたものでない政体は長続きしないものだ。

10年越しのベトナム戦争、1973年のチリ政変、最近ではベネズエラ大統領の誘拐、第二次大戦後に米国がおこなってきた戦争はいつも親米政権を打ち立てることが目的だった。親米国家であれば、それが軍事独裁政権であろうが、非民主的な抑圧政権だろうが、それを支援し、親米でなければ反政府側を支援して政権転覆と親米政権樹立を目指す。支援とは、資金の提供、武器と軍事訓練の供与、米軍プレゼンスによる威圧、さらには直接的な武力行使も含まれる。それが米国の世界戦略の実体だ。

しかし、ベトナム戦争は多数の自国兵士と経済的損失を出したあげくに失敗。アフガニスタンでは、一度は崩壊したタリバン政権が復活した。米軍の攻撃で国土は荒廃、家族や友人を失い、成立した米国の傀儡であるカルザイ政権への反発が「帰ってこい、タリバン」につながった面もある。ありもしない大量破壊兵器を“差し迫った脅威”と喧伝することで始めたイラク戦争は、独裁者フセインを倒したものの、その後の混乱から現出したのがイスラム国(IS)だった。民衆自らの手で築き上げた社会であることの重要性は、まさにそこにある。

なぜそうまでして米国は親米政権樹立にこだわるのか。そこが資源の供給地になり、米国の市場になるからである。資本主義システムというのは、経済活動が政治に働きかけ、政治が経済活動を可能にするという二人三脚なのだ。米国は、民主主義国であるというよりは、資本主義の帝国であると認識すべきであろう。

この文章はまだあと、この倍ほど続きます。紙面が足りませんため、WEBサイトにてお読みいただけますなら幸いです。



リンク先はここです。
クリックしてください。

スマホでは、QRコードを読み取ってください。



メール連絡



別所憲法9条の会ホームページ ▶ <https://bessho9.info/>

